



**国連事務総長
ウェーサクの日へのメッセージ
2013年5月24日**



ウェーサクの日は、世界中の仏教徒にとってのお祝いであると共に、国際社会の中に生きているすべての人々がその豊かな伝統から恩恵を受けることができる日です。

争いと悲惨な窮状が世界中に広まっていますが、このような中でとり行われる今年のお祝いは、世界を覆っている様々な難題に私たちが対処していくためには仏教の教えをどのように役立てたらよいかを知るよい機会です。

私たちの世界が直面している困難な問題に逃げることなく取り組むことは、仏教の態度と一致しています。ブッダは、まだ若い王子だった時、安全な宮殿を後にして逃げることなく修行され、人間には誕生、病気、老い、死という4つの苦しみがあることを発見されました。

そのような苦痛に満ちた現実から逃れることはできないのですが、仏教はそのような現実とどのように取り組むべきかについて深く洞察し、私たちに教えてくれています。仏教の歴史には、仏教の考え方が変革をもたらす力を持っていることを示す、私たちに勇気づけてくれる実例がたくさんあります。

伝説的な王であるアショーカ王は、ブッダが逝去されてからおよそ3世紀後のインドにおいて残忍な統治を行っていた征服者でしたが、最後には仏教に改宗し、暴力的統治を捨てて国に平和をもたらしました。

アショーカ王が価値あるものとして取り入れた仏教の考え方には、人権、民主的統治、生命の尊厳の尊重などがあるのですが、それらは全て偉大な宗教に共通したものです。アショーカ王が長年にわたる残酷な戦いの後にこのような考え方をとり入れることができた、そして国に平和をもたらすことができた、という事実は、個々人の善き意志が広範囲に広まった苦しみを終わらすことができる、ということの証左となっています。

今、私たちは、どの時代にもまして、平和を鼓舞し争いを鎮めるのに役立つ非暴力の精神を必要としています。

私は、ウェーサクの日をお祝いされる信者の皆さんに心よりのご挨拶を申し上げますと共に、私たちみんなが精神的理想の力を借りて私たちの世界をより良いものとしていくという決意をさらに強めてほしい、という私の心底よりの希望をお伝えいたします。